

191 (その私は) 小さく粗末なあばらや (に、住み)
192 薄暗く暗澹とした (西海の果ての) 青海原のほとり (に、立つ)。

語釈

185 ○覆巢：巢をくつがえす。『呂覽』「應同」に「天覆巢毀卵、則鳳凰不至」の用例が、また『史記』「孔子世家」に「覆巢毀卵、則鳳凰不翔」の用例が見える。

○蔽 ……たまご、孚卵。『廣韻』には「蔽、鳥卵」と説明する。

▼【覆巢破卵】…巢をくつがえして卵をやぶる。転じて親の災いに子も傷つけられる喩。本亡びれば末も従つて亡びる喩。

『吳志』「陸凱傳」に「有覆巢破卵之憂」の用例が見える。

▼【覆巢之下、復有完卵乎】…くつがえった巢の下には完全な卵は無い。転じて、根本が亡びれば枝葉は従つて滅びるの喩。『世説新語』「言語」にある孔融の二兄の故事に基づく語。↓補説①

『漢語大詞典』では【覆巢之下無完卵】の項で、「鳥巢翻倒了就沒有不碎的鳥蛋」と説明し、補説①の『世説新語』の一文を引用している。

また、【覆巢破卵】の項で、「同「覆巢毀卵」」と説明し、陸賈『新語』「輔政」の「秦以刑罰爲巢、故有覆巢破卵之患」の例を引く。

また、趙元一の『奉天録』「卷二」の「如或固守窮城、不識天命、必使覆巢破卵、易子析骸」の用例を引く。